演劇改良意見 完

末松謙澄述

F 70
51

英國法學士技藝士末松謙澄述

演劇改良意見 全

版權所有

文學社

升70/51

頃演劇改良の事は頗る世上の問題となりたる樣に考へまするより其れにつき聊か鄙見を述るつもりでござります一体日本の演劇は甚だ不完全の處が多ひと云ふ事は諸君もすでに御承知の通りで演劇を改良せねばならぬと云ふ事は殆んど通り越して是よりは寧ろ如何なる方法に改良して宜ひかと云ふ時節に赴きたる樣に思はれます幸ひなる事には其改良を實際に行つて見やうとおもふ人が朝にもあれば又野にもありますから自然演劇改良會も起りました次第柄左れど今度の事はむしろ朝野聯合一致の企てなりと云つても宜しかろうと思はれます就ては其人等の

驥尾に附て私なんども應分の力を盡す積りでありますゝろの實を申さば私の爲すところ言ふところは他の有志諸君の代言を致す位の所にすぎませんから此邊はよろしく御承知くださりませ殊に當文學會が附屬せる東京大學にて有力の諸君が多くは此改良會の御仲間でありまするのは東京大學の爲め又當文學會のために私が大に賀する所でござります元來政治上にかけ離れた事で世間の上に起る變動と云ふものは都て學術文章の有力者より起らなくてもなりません即ち宗教とか若くば文學上に關係するものゝ改良に就きましては必らず學問に深く智識にも明らか

得べき者ではありません、左すれば吾々の職務は只其改良をのみ謀るにあらうと存じます

去りながら吾邦に於て演劇場の數は東京にても大なるもの小なるものを併はすれば七つ八つもありませう其他京都大阪を始め全國の劇場の數はあまたあります、然るに、この多くの演劇を一々改良せんと思へば或ひは政府より一紙の法律を布告し又は警視の一令を以てし若くば學者一枝の筆を以てしたりとてその成功は覺束なく存じます因て改良會の人々は是等の手段によらずに第一着に新劇場を建築するが一番だと見込み東京に一の完全なる演技場

を建築するに決しました、これは維新の大業には遷都の策も肝要なりしと同じこと、シテ他の劇場には少しも關係せず唯々知らず識らずの間に自然改良の影響を他劇場にも及ぼすつもりであります勿論今般の件に就ては演劇改良會は皆文明家西洋家の目論見なり、あぶなし〳〵なんど云ふ人もありませうが決して左る次第ではありません私どもは是の事に就ては初めより舊弊人否所謂實着家にも熟談して此れならばと云ふところを取りて思ひたちしものでござりまするゆゑ其邊は深く御安心あられんことを願ひます

ります、そして其椅子は上等に器用に拵らへてあります日本でも其通に致すがよろしひ併し日本人は坐れるが習慣ですから俄かに悉く打ち破る事が出來ないとの事ならば最も後手(うしろ)の處へ疊を布ひて見する所を少々作り置くもよからうが相成べくは、やめにしてもらひたいのです次に食事に至りましては隨分困難が出て來ることゝ思ひます素よりこれは時間に關係いたしますが大抵は夕飯ずみの後にて興行する事なら別に彼れ是れ苦情はありませんが日本は昔しからの習慣もあるから今少し早く興行して例へば午後四時か五時頃より始めねばならずとでも云ふ事あ

らば其時には夕飯の用意もせねばなりますまい是れ鐵道ステーションに有る如く立食所の樣な者を拵らへて濟ますも苦しうないなれども此に困る事には矢張日本料理と西洋料理と調へておかねばなりますまい、これだから改良策も中々面倒な事が澤山ありと察し玉へ、それから幕間の長き時に音樂に飽きた人が散歩もなさなくてはならぬ其時には散歩の場所もなければ、ならずそれから今一層細(こま)かなところに立入りて申せば日本では馬車は多くありませんが其代り人力車は烏渡とした集會でも滅法澤山集りますさすれば人力車の處分にも甚だ困る茶屋の世の中なれ

絶佳なることは言葉にも絶して居ります因りて日本でもあかりの工合が肝要でござります勿論當時瓦斯と電氣燈との兩樣あれば如何にも其細工は出來ませう見物人の眞上の眞中にも大なる燈火をつけ自由にその光りを増すこともに減することも出來るやふにし幕り明けむ急にこれを減すべし左りながら此事に就て困難なる事のありと申そも外でもなし其の火力甚だ強き故に空氣の動搖甚しく左なきも熱氣を出す事甚しひから其下に居る者は忽ちにして暑く忽ちにして寒くていけませんから西洋でも工夫をこらし其燈火の下に玻璃をはめて試みたるなどあれどもぞれも旨くゆかざりしと申すこととなれば是等も技術師に工夫を願ひたき事でありまそ勿論此ガラスを被ほひかぶせてあるのは王宮の踏舞場その他議院などでよく見ますが演劇に於ていけないとありてはマサカ用ゆる次第にもなりますまひ是れに付ても前に申し上げた寒暖平均管の仕掛は必要でありませふ殊に我日本は英佛等の諸國よりは其熱度も高く時季も長ければ西洋諸國がこれが爲め大工夫するよりは一層の大工夫をこらさなくてはなりません且つ演劇は早天より始めるは馬鹿げ切つて居りますから前にも申す通り夜分となすがよろしひ又夜分にし

て差問はない全体脚色から云つても正眞正味のところは僅かで其外は餘計な間に合せものに過ぎません故に幕數は四つか五つで事充分足ります長續きの段物は少しく工合が違ふかは知りませんが、それでも中幕などは丸で無用な贅物でありますからソンな事は成るたけ無いのがよろしひ因つて興行時間は先づ六時か七時頃より始めるのでありますす、よしんば長ひ物であつたら仕方がない少し早く始めても矢張夜にかゝるゆゑ燈火の要意は充分にせねばなりません此外俳優の化粧部屋や衣裳部屋かつらをつくらふ床山部屋なども造つてやらずばなるまいし又道具建

てをするに一つの大なる書部屋もなければならぬ、これは演劇の書割などは別して大なるものにて懸けて畫くも廣げて畫くも澤山間をとるから大きく作らなければいけない併し畫室は固より粧飾などの必要はない粗末でもよろしい景色は成る丈畫に訴へてその感情を起さしむる考へ畫部屋の設けは忽がせにはなりません次に舞臺は側面のユトリから奥行も深く拵らへねばなりません何故それを深くするかと云ふに側面は道具を入れ奥行は遠景を看するため何れもさうしなくつては不都合であります次に日本には花道もあれば又廻り舞臺もあります此等は西洋に

ハありませんが廻り舞臺は悪いかと云へば決して然らず且つ別に場所を取るでもないから是れハ設した方がよからふ花道の方ハ是を造るには間取の都合等建築上の困難少なからず、然るに花道がなければ演劇ハ必らず出來ぬとあれば兎も角なれど是れハなくとも宜しひもので先日新富坐で演した華山の女房が寺參りに往くに態々と花道を通つて往かずとも事濟むでござりませうが、なにも花道からゆかずとも舞臺の側面から出ても同じことで決して差閊へハない全体日本演劇の癖として兎角その全景を見せやふと思ひ必ず道をつけて、ツヤラヌ小柴垣を結び家ハ門

と格子戸を必ず着けるのが世間なみ極まつた樣でそがそれハ甚はだ煩らはしひ若しも之をを反對にして表（おもて）ハ遙かの前面にあると云ふ事を示し直ちに其場其所を見すればハ夫れで結構どころではない大層よろしひ且日本にてハ元來舞臺一面を一室の內と見做す道具立かないからチイポケな家を拵らへて見するが例（ためし）でありますそれハ實に興味の薄い事ですから程々にして宜しひ其上に花道は是非必要といふ譯ではなし、その實見物人の後面や横からヒヨツコリと出らるゝより却て舞臺の上で遠目に眺めるやうにしたが遙かに演劇術の眞意かともおもはれます併し時に

よらは花道の爲め好都合の事もあらんが其れも稀れであ
る、左すれば左樣な稀れなる利益は他の不利益を壓するに
足るのは技術家の調べが肝要で御座ましやう次にセリダ
シハ西洋でもないではありませんがそれは重もに道化狂
言などに用ひます眞誠の演劇も斯る小細工をかりてチョ
ト人氣を取るには及ばぬ事だらうと思ひます併し之れを
造るに就て大面倒と云ふ譯でもないから造ればとて妨け
もなからふとおもひます又義太夫語り即ちチョボとかい
ふものゝ居所は必要であるか又は否らざるか演劇は元來
俳優が自分の精神上より實地に演して其役前の藝は自分
で悉く演ずるが至當のはなし日本の演劇は西洋の演劇
に較ぶれは一体に言葉の用ゐ方が少ないのに夫れさへ自
分では皆は言はずチョボの力を仮りては自分ハ身振とか
手振とかする事の多くあるは俳優の方から云へば甚はだ
ズルイ話しであるのミならず其身振手振も踊りも同ド事
で却つて眞情を失ふ事が往々ある、それよりは自分で其言
葉を使ひ充分に演する樣にした方が見物人の感動も深ひ
から成る丈け彼のチョボをばやめにして貰ひたし若し習
慣の久しき今日の人には全く廢するも如何とあらば少な
くする樣に致したい、さうなれば淨瑠璃臺も必要でもない

から時々手輕い物を据へつける位で充分でありませう又日本では幕間に「菓子はよしか」「お茶はよしか」「鮓はよしか」と吐鳴り立てゝ賣りあるくが是れも寔にうるさくもあればも不体裁でもある故全く廢して矢張西洋の通り幕の間はヤルで音樂ばかり奏して人の心を清く鎭める様にするのがよろしいこれ音樂も西洋にては通例舞臺の最とも前面なる小一とか云ふ所の邊で樂人の席をしつらへ合奏するのです日本でも其れに倣ふて宜からう三味線、鼓でドンチヤンポン〳〵やられては困り者でありますが西洋の音樂なら極めてよろしい元來音樂は國家有益の者なれば萬一始めの中は見物がこれを聞くを餘り好まぬからとてこれを用ひて自然に其耳をならすがよからう尤とも洋樂と云ふても海陸の軍樂とは違ひオルケスツラルバンド即ち重もに鼓弓笛などを用ゆるものを使ふのです

扨又景色も如何にして造るべきか道具立はどうして拵らゑるかと云ふに是迄日本演劇に用ひた物はまことにお疎末極まつた者です是等も矢張西洋風に基づき美くしき畫仕掛や道具仕掛をする事に務めねばなりません此頃新富座は少其等らの邊をば心得て來たさうですがまだ〳〵不完全であります、其癖どうも美術の旨意を誤解して事によ

ーとが中庭にて互ひに其心情をとらりし手に手を携へ好ひた同士が月によそえての睦み言を聞きましたその時の月などは今も倘恍惚とーて忘られません迚も日本流の月の及ぶところではありません先頭の新富坐の月はやゝ出来がよろしいといつても、まだ不十分にして見答へがしなひ又船の事に致せば現に彼處に居る堀越君が芝にて演せし時の者を見た事がござりましたが其船も強がち悪ひでもありませんが私が巴里で見た船にはなか〱及びませんで右の巴里の船は舞臺一面を船の甲板となし而して舞臺の奥は幾尋となき大きな絵仕掛になつて居りまして之れが一方より巻て往きますれば其景色は晝時より暮時に至るまでズッと見せ宛然(さながら)船の進行する様に見せますから眞の航海の思ひをいたします其巧妙なるには日本の船などの及ぶところではない、已では我改良演劇も景色道具立の注意肝要なるは華山の芝居の時に雨や雪が大層宜しいと人々の評しあひしを見ても知れる話しでありませう

次ぎに演劇はドンな者を演するか世人は之に就ては色々の臆想を懐ひて「何んでもパリーかロンドンの演劇を持て来て演するには相違なし」抔と云ふ者もありませうかなれども其れは大間違ひの話しでござりまして必らず洋服を

のを演ドても町人娘を演じても高尚と云ふ事ハかの中に
存するものでござります又言葉の上に必ずむづかしひ言
葉を使つたから夫れで高尚だと云ふ道理ハありません之
れを譬へますれば恰かも詩文を作ると同ド事で彼の初學
者が字典と首引きをなし若くハ含英の韻末の處から態と
むづかしき字をひねくり出して何か譯らぬ陳芬漢(ちんぷんかん)を出來
したと云ても高尚ではありません、それとハ異にして極て
容易に分る文字を用ひて作りし詩文に高尚なるものが多
き樣に芝居とても容易(たやす)きその内に優美にして高尚な處を
見せるのが高尚と云ふのですからミヅカラ言葉ハ必らず

しも高尚ならず漢語交りの御新作物又必ずしも高尚なら
ず但し今の日本の演劇之何れも其脚本陳套にして或ひハ
寶物紛失とか若くハ拐兒とかを種子として演ずるのが多
ひが是等之先づやめねばなりません且つ又兎角日本の演
劇ハ勸善懲惡ゝゝゝと云ひますがソンなむづかしい講
釋を云ふことハやめて貰ひたひのです、さうゆう事ハつと
めて廢して美術と云へる二字を眼目として願ひたい美術
と申せば皆な形の上のみかとたづぬるに決して左樣でハ
ありません美術と云ふ字を換へてホアット、イズ、ビューチ
フル、何ガ美であると云ふ事を穿鑿したなら道德上にもそ

の關係あることゝて殘忍苛酷なるもの不正不義不條理なる者ハ都て我々人心に眞の滿足を與ふるものにあらざるゆゑ上出來の演劇は求めずとも自ら勸善懲惡の意に適ふやうになるものなれば何も勸善懲惡など云ふ事を講釋して大騷をせずとも宜しい事であります其實を申せば日本では餘り勸善懲惡の講釋が過るゆゑ其痕迹が容易に見えて却て勸懲の意を失も少らず、だが元に立ち返つて申さんなら新狂言も固より作らねばなりませんが去りとて吾々が寄つてたかつて滅法立派な者を作すると云ふ譯ではありません會員外山君も云はるゝ通りシェークスピヤーハ世々にして出る者でなければ日本とても近松紋左衛門竹田出雲などハ流義こそ違て居れ誰にでも直に之に匹敵の脚本を作り得るものではありますまい左すれば演するものが殘らず新らしものと云ふにも限らねば又舊作ばかりと云ふでもありません

然るに此に困難なることの出で來ると云ふものは從來の日本の狂言作者でござります昔しの作者ハさうでもないかも知をませんが近代の作者は皆俳優の奴隷たるに過ぎません否奴隷と申して裁判沙汰にならればハ大變ですがマヅ昔しの作者ハ「ろく作を爲したれば此通り骨を折つて

劇脚本には必らず出版權興行權を政府より下附する事よなりませうマヅ此等の方法よよりて文學美術の振興する事を望むのであります且つ今後は矢張芝居の臺帳なるものを出版して賣るも宜しひ事だらうと思ひます全体日本人は昔しから大變淨瑠理本を珍重しまして「佳肴ありと雖ども食はざれどその味を知らず」などゝ分らぬ文句をつけた本でなくては承知しないが脚本には是れは無要の話しなれど無論棄てなければいけません西洋の劇本などには其の様な事はござりません。なるほどこれは無くても宜しひ道理でかゝる馬鹿げた文句を苦辛して書き立てずとも

よい譯なれば今後は只臺詞（せりふ）ばかり連ねたもので脚色せる臺帳をば出版せられたき事でござります出版よなりまねれば之れを批評することも出來れば自然ろの物も進歩し來り世間の人が買ふて見るものが多く出て參るだらう。かくなさば國の文學の爲め喜こばしひ事であります勿論我々會員諸氏の内にも必らずそれ等の事よ盡力する人もあるだろうが猶廣く諸君始め世間の有志者の御注意あらん事をねがひます

然るよ今此に一歩を退ぞひて我國演劇の体裁を見まするに必らず歴史物を正則となし世話狂言を變則と爲す様で

あります左りながら之を能く〳〵味はひますれば世話物は世人の愛情を基として出来た者ですから歴史物にくらべますればなか〳〵珍重すべきものでありますナニも必らず鎧武者が出なければならぬと云ふには限りません。シテ此世話狂言に就ては誰人も御存じの八犬傳中にある濱路なんどの様なる婦人を重立たる女主人となし之を働かして見せたならよろしからう梅川の如きは好ましからず序に申さん濱路と梅川とを併べたらば孰れが優美高尚と云ふ事は問はずして。諸君も御承知なさるでありませう扨て又新劇を作るには眺めでも理窟でも後世より引証するに足る名文句のあるやうに心掛けではなりません全体日本には何によらず。かによらず名言の少ないには困ります條野傳平氏即ち山々亭有人(ありんど)の話しに「私の知人に清元福次郎と云ふ男がありまして此男なか〳〵の奇人でしたが或る時突然私に言ふには「己(おら)らア日本は大嫌へだアノ支那と云ふ國にやゑらひ大將で韓信と云ふ人の食客をして何の名もねへ奴が天子の前に出て言ふには(臣知有信不知有陛下)などと大言を吐鳴たさうで隨分名言だが。この日本にやナンたることだ武内宿禰は六朝に仕へる大臣だと云ひ柿本人麿は三朝に仕へし歌聖だそうだか武内宿禰曰くもな

Sentenさい

けば柿本人麿曰くもあし(島かくれゆく舟をしぞおもふ)など。あれが何だろの曰くがねへのがおらが日本嫌ひの譯だ」と言つた事があつたそうですが成程もつとものの話しで淨瑠理本などにも名文句とては更に有ません今後は何でも名文句を作り出さなくてはいけません一体日本の演劇は大事な處の言葉と云ふものが案外に尠なくて詰らぬ處に却て無駄言が多ひのは寔とに馬鹿げた話しであります殊に日本の芝居には獨物語の極めて少なひには大に西洋芝居に劣つて居る彼のハムレット親王が(ツー、ビー、オーア、ナツト、ツー、ビー)云々と獨り語りする樣な名文句が更らにないのは日本の演劇に取りては遺憾千万でござります併しひとり物語などゝ云ふは餘程の名優で綽々として餘裕あるものでなければ出來ませんし且つ日本の俳優は常に舊風を負ひ僅かのひとり物語りでさへも之れをば大抵チヨボに頼み申し自分は跳りのみで濟ますこと多く眞に看客の情を動かすに足らぬ事は前申し上げた通りであります就ては之れを悉皆急に矯むるはむづかしき事でもあるが注意すべき事ですから序でに申し上げておきます且つ日本の演劇は其脚色に道筋が混雑して居るから困ります西洋ではまづ演劇を大別してコメデーとトラゼデーとの

二ッといたしますコメヂーハ滑稽洒落を專らとしてドッと人を笑ハせますがトラゼヂーは之れに反對して嚴正悲哀を本としますから人を感せしむるもので各〻其主とする所を異にして居ります後世に起りたる歷史ものハ幾分か混交せる所もありますが其本筋ハ猶判然として區別がついて居る。日本の芝居は此等の區別ハ丸てないも同然なやうです。それゆゑ眞に悲くもなく又眞に可笑しくもなき事が多くあるやふでも尤ともトラゼヂーらしき原素は大分あれどもコメヂーと申すべき芝居ハ多くハありません小說にハ却て膝栗毛などもあり又茶番狂言と云ふもあれどもコメヂーが本芝居に適せぬやふに思ひ來れるハ誤りだらう。そはともあれ更に元へ返つて申しますれば日本の芝居ハ全体コメヂーとトラゼヂーの分ちもなく且つ幕數が多きゆゑ筋道の困難極りなく何の事だか分らぬ樣なる事を仕出す事もあります西洋にて演劇に三ッのユニチー即ち一致と云ふ事あり第一にハ場所の一致第二にハ時の一致第三は働の一致と申して即ち場所の一致とは脚色に場所のあまり離れたる思考を除く事又時の一致とハあまり時の隔らぬ事第三にハ重なる立役を幾人も出さずして人目の注ぐ所を專一ならしむる事此の三の一致は往古ハ中

な事には委細搆はず何でも演じて良巧なものを作るが第一の必要であります

然らば我改良演劇は何を目的とするかと云ふに改良演劇は中等社會以上の人を以て目的と爲すのであります左ればと云ふて中等以上の人にのみ分つて下等社會の人物に分らぬ樣にすると云ふ次第ではありません前にも申せし如く平易にして誰にも通ずる處に優美高尚の趣きを仕込むが妙手でござるが是れは奥の手として先づ作者は中等人士に適する樣作る事を目的としてもらひたいのでそ偖ソンなら俳優はどうするかと云ふに世間では飛んでもなき考へ違ひを致し改良演劇の俳優は巴里か倫敦かで雇ひこねばならぬ歟のように云ふもありますがこれは矢張日本在來の俳優に任そより外に仕方がありませんイヤ日本俳優で充分であります兎角日本の俳優はいけないと云ふて世間の人の内では一概に罵詈する者もありますが是れゑチト苛刻のはなしであります日本の俳優とて拙劣ではない其技倆上でいへば隨分感心のところもあるが只殘念なは其技藝を演ずる上に於て流義が違ひます之れを譬へますれば善事に用ゆる智惠と惡事に用ゆる智惠の樣なもので其用ひ方が違ふから彼れ是れと議論の出る次第で此

流義は追々と改良しなければなりません其流義と云ふものは早く申さば日本役者が演するものは精神よりは寧ろ變な手振身振が勝つて居りまして詞のつかひ樣も人造に過くの弊があります私は先達ての事先代萩の劇を見ましたが其時政岡は義太夫に詞を言はせ自分は頻りに手踊半分の身振をしますから「あれぢやいけなひ人間が愁嘆するにアンなに踊るものか」と云ましたら傍に居りました某が「ナニあの處を市川團十郎が狂言しるときはアンなに身振はしなかつた」と云ひましたが成程市川團十郎の技倆で演しましたらソンな事もありますまいが。どうも是れは餘程の

しこみあるものでなければ到底むづかしいです若し又これを嚴しく申しましたなら却て見られぬわざが出ませうと思ひます就てはこれも急ぐには及びません漸次に改良せしむるつもり尤も改良會員も暗に盡力し見物人も追々と精神上よりする働らきを賞美するやうになりましたなら自然進歩して來るでありませう勿論我々改良會員は平生から斯るところを心懸ねばいけなひ一時に大變革を謀るではなひ即ち是等がいわゆる提灯持の所以であります且又全体日本の俳優は自分が演ずるものゝ其の自身の境界如何を篤と味ひ心得なひで無我夢中に其形ちにのみ心

を奪はるゝので精神を入れぬが大なる流義違ひの誤まり
でありますゆゑに其感情の移らぬハ申す迄もなき次第西洋
女役者抔の所作を見聞するに能く其人を演するに精神を
注ぎ入れまして其悲しひ場合に至りますれば日本役者の
如くオー〳〵と聲を立てゝ泣かず眞に涙を滴(ひた)らす事があ
ります。さふかと云つて眼に水嚢を含んで演ずる次第では
ありません其身がもしも其場合に際したならばかくも悲
しき者であるだらうと一圖に思ひ込めば自然に涙も出る
ものだと申しますそが是等ハ固より大に注意すべき事でハ
御座りますが其れが足らぬとて其ればかりで日本の役者

を弃てる譯にハ參りません併し箇様に申せば「ソウなんの
かのとおまけをつければ日本の役者中にも役に立つもの
が何人かあるならんがそれで人數が足ります歟と云ふ者
もありませうがそれハ決して心配にハ及ばぬ事一体日本
の演劇ハ俳優が多きに過ぎて却つて其弊害があるので乃
ち役者たちが役割につひて苦情を言ひ。なにやかやと云ふ
から畢竟幕數が多くなり。脚色の道。筋も混雜して來るもの
ゝ原因する次第であります付てハ重立たる役者の數は餘
り多人數にハ及びません序でに申します改良演劇にハ番
付の書方などハ丸で舊弊を弃てねばなりません

併し是迄は重もに男役者の事のミ申し上げましたが玆に申上げんとするハ諸君は已に疾に御覺悟の事ならんが世上にては或は驚く人もありませう餘の義にあらず女形にハ女役者を使ふ事で御坐ります此義ハ到底斷然と行ハずてハなりません イヤ女役者がなくては迚も眞の芝居ハ出來ません去れば改良演劇にハ無論女役者を使ふつもりさりながら此女役者ハどこから取る歟どうして仕込むかハまだ未發の事ゆゑ今日ハ申し上げかねます

斯く申した處で「しからば其事ハ如何にして實行するか其資本は何處から出る者か」と問ふたならば私は之れに對して委細の事ハ云へませんがマヅその大体を申し上げんに之れを株金として募集したなら隨分見込のある事でござりまして一方に於てハ廣く世間より募り一方にてハ其筋からも幾分の加入を願ふ筈であります。それでまづ金も目的通り集まるものとすれば然らば其れを如何に處置するかと云んに其事務上に於きましては他の私立會社と同じ組織にするつもり付ては支配人もおき世話方も會計係りも之れをおきまして其事務を取るのです又學術委員も要しまする事で今度新規にかういふ脚本が出來たれば之れを興行すべきや否やを調査したりその外に時としては脚

明治十九年十月八日版權免許
同　年十一月　出　版

演說者　東京京橋區築地二丁目五番地
末松謙澄

筆記者　千葉縣平民
東京日本橋區元大工町十三番地
市東謙吉

出版人　滋賀縣士族
東京日本橋區本町四丁目十六番地
小林義則

發兌　東京日本橋區本町四丁目十六番地
文學社